

JAERA NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
ニュースレター 2026年 10月号

vol.210

連 載

自動車リサイクル業界を 担うホープ(30)

名前: 平間 篤史 (ひらま あつし) (48歳)

所属: 株式会社札幌パーツ
(北海道札幌市)

役職: 専務取締役

趣味: 釣り

MBTI: 指揮官型 (強い決断力と行動力を持ち、目標達成へ周囲を力強く導くタイプ)

— 仕事で誰にも負けない部分

コミュニケーション能力

— この業界の魅力を一言で

資源循環と環境保全に直接貢献しながら、新たな資源を生み出せるところ

— 将来の業界への期待

新たな資源循環をこれまで以上に求められる業界

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。



INDEX

【連載】自動車リサイクル業界を担うホープ / 巻頭言 — P.1

道路交通法の改正について — P.2

現場の取り組みから学ぶ カーレポの取り組み紹介 — P.3

JAERA 活動報告 / 自動車リサイクル士更新講習会のご案内 — P.4

8月新車販売台数・使用済自動車発生台数・輸出返還台数 — P.5

鉄スクラップ最新情報 — P.6

活動予定・お知らせ / 編集後記 — P.7

【広告】いその株式会社 — P.8

巻 頭 言

広報部会

木村 香奈子

この夏、千葉県をはじめ各地で豪雨による水害が相次ぎ、9月8日には名古屋でも多くの冠水被害が発生しました。被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

近年は HV・EV の普及により、冠水車の引取りにも高電圧への安全対策や、始動不能車を安全に搬送するための専門知識が求められています。実際に冠水車の引上げ現場では、始動しないハイブリッド車の搬送に苦勞する場面もあり、車の進化とともに、私たち自動車リサイクル事業者にも新たな知識と技術が必要になっていることを実感しました。

災害時に一台でも多くの車両を安全かつ迅速に引き取り、適正処理と資源循環へつなげることも、私たちの大切な使命です。これからも業界で知識を共有し、連携しながら、変化する時代に備えていきたいと思ひます。

02

道路交通法の改正について — 引取り・営業で車を使う私たちこそ、いま確認を —

生活道路における自動車の法定速度が引き下げられます！

2026年9月1日から、道路交通法施行令の改正により、**生活道路における自動車の法定速度が60km/hから30km/hへ引き下げられます**。対象となるのは、主に地域住民の日常生活に使われる、中央線や車両通行帯のない一般道路です。いわゆる住宅街の細い道や、工場・事業所の裏手にある生活道路などがイメージしやすいでしょう。

今回の改正で大切なのは、「**標識がない道なら60km/h**」というこれまでの感覚が、**そのままでは通用しなくなる場面がある**ことです。一方で、中央線や車両通行帯がある道路、中央分離帯などで往復交通が分けられている道路、自動車専用道路などは、引き続き法定速度60km/hです。もちろん、速度標識がある道路は標識の速度が優先されます。

なぜ30km/hなのか。警察庁などの資料では、自動車の速度が30km/hを超えると、歩行者の致死率が急激に上昇することが示されています。さらに、生活道路に近い幅員5.5m未満の道路では、歩行中・自転車乗用中の死傷者が占める割合が、幅員5.5m以上の道路より高い傾向があります。

つまり**生活道路は、車のための道というより、人の生活のすぐそばにある道**です。子ども、高齢者、自転車、配達車両、歩行者が混在する場所だからこそ、**スピードを抑える必要があります**。



警察庁・都道府県警察

【出典：警察庁HP】

法定速度が30km/hとなる道路の例



【法定速度が60km/hから30km/hに引き下げられる道路は、主に地域住民の日常生活に利用されるような、中央線等がない道路（＝生活道路）です。出典：警察庁HP】

自動車解体事業者の皆さんにとっても、この改正は人ごとではありません。使用済自動車の引取り、部品の搬送、営業訪問などで、住宅地や狭い道路に入る機会は少なくないはず。とくに注意したいのは、

① 住宅地へ入った直後

幹線道路の流れのままの速度で入らない。細い道に入ったら、まず速度感覚を切り替える。

② 見通しの悪い交差点

生活道路は塀・植木・駐車車両で死角ができやすく、自転車や歩行者の飛び出しに注意。

③ 朝夕の通学・通勤時間帯

学校周辺や駅周辺では、人の動きが急に増える。

④ バックや切り返しを伴う場面

積載車などは車体が大きく、周囲確認をより丁寧に。

⑤ 「慣れた道」ほど油断しない

何度も通る道こそ、速度超過や一時不停止が起きやすい。

引取先へ急ぐときほど、狭い道では“急がない”。それが事故防止にも、会社の信用を守ることにもつながります。社内全体に改めて周知を行い、日々の運転を見直していきましょう。

詳細や事例は[警察庁HP（生活道路における自動車の法定速度が引き下げられます!!）](#)をご参照ください。

03

自動車業界から、循環型社会をつくる —現場の取り組みから学ぶカーレポの取り組み紹介—

アップサイクルモビリティサービス Choice!を開発

使用済自動車の発生が減少するなか、国内で資源循環をどう維持し、広げていくかが問われています。今号では、資源循環の設計を通じて、結果として廃車の計画的な引取り機会の創出にもつながる、カーレポ株式会社の実践を紹介します。

■ 地上の資源を「長く使い、確実に戻す」

自動車を取り巻く環境は、脱炭素、資源制約、サプライチェーン再編を背景に大きな転換点を迎えています。鉱物・金属などの地下資源は採掘・精製に伴う環境負荷も大きく、無限に使えるものではありません。これからは、すでに社会に存在する資源、いわゆる「都市鉱山」を可能な限り長く活用し、役割を終えた後も次の価値へ確実につなぐ「循環の設計」が欠かせません。

■ 「リソーサー」としての私たち

カーレポは、輸入車の新車整備、保管・管理から、役目を終えた車両のリサイクルまで、車のライフサイクル全体に関わってきました。その中で強く感じたのは、適正処理だけでなく「いま地上にある車両そのものを資源と捉え、国内で確実に循環させる仕組み」が必要だということです。そこで私たちは、廃車という都市鉱山から資源価値を引き出す「リソーサー（資源化の担い手）」として自社を位置づけ、その仕組みづくりを進めてきました。その一つが、車を「所有する」以外の利用形態として開発した、アップサイクルモビリティサービス「Choice!」です。



■ もう一度走らせて、必ず回収する — Choice!の仕組み

廃車予定・手放し予定の車両は、そのまま解体に回るのが一般的です。Choice!では、その中から「まだ走れる車両」を選別し、再び自走できる状態まで再整備します。蘇らせた車両を「再生利用車」と名付け、月額 11,000 円（税込）で 2 年間、移動手段として提供します。利用終了後は必ず当社が回収し、分別解体を行います。「一度利用者の手に渡った車両が、最後は国内の資源として確実に戻ってくる」という出口の確約が Choice!の核です。手放されるはずだった車両をもう一度使い、2 年後に確実に引き取る流れは、廃車の計画的な引取り機会の創出にもつながります。

■ 出口を「素材リサイクル」まで設計する

Choice!は、利用後の出口を「再販」ではなく「素材としてのリサイクル」まで設計しています。そのため走行に支障のない範囲の傷やへこみは、原則として原状回復（修復）を求めません。免許取得直後の若年層や運転に不安のある方でも心理的ハードルが下がり、利用の裾野も広がります。車を所有する場合は購入費に加え、維持費、保険、税、将来の売却・廃車手続きなどコストと手間がかかります。「必要な期間だけ合理的に利用し、その先の循環まで含めて選ぶ」選択肢を社会に実装する意義は大きいと考えています。

■ 理念を「選ぶだけ」の行動に変える

一方で「資源循環」という理念だけでは生活者の具体的行動につながりにくい課題もあります。だからこそ Choice!では、利用者にとって分かりやすいメリットを示し「選ぶだけで循環に参加できる」仕組みとして設計することを重視しています。

■ 循環は一社では完結しない

自動車業界にはメーカー、販売店、整備事業者、解体・破碎などのリサイクル事業者をはじめ多様なプレイヤーがいます。さらに地域企業、自治体、教育機関など業界の枠を越えて連携すれば、これまでにない循環モデルを生み出せるはずです。私たちは自社だけで循環を閉じず、業界の皆様をはじめ多くの企業・団体と連携を広げ、地域起点で新しい循環の形をつくっていきます。

■ 日本列島都市鉱山開発構想 2050」へ

車は使い終えた瞬間に価値が終わるものではなく、素材や部品、機能価値は次の誰かへ引き継ぎます。カーレポは地域のリソーサーとして、車由来の資源を「次の価値」へつなぎ、高付加価値の再生資源へと高め、共感いただけるパートナーとともに資源循環を確立していきます。この取り組みを「日本列島都市鉱山開発構想 2050」（Japan Urban Mine Development Initiative: JUMDI2050）と名付けました。2050 年をゴールに、自動車ユーザー・リサイクラー・メーカーをつなぎ、地産地消の資源循環が日本各地に根付く未来を目指します。

■カーレポ Choice!の詳細は[こちら](#)

04 ▶ JAERA 活動報告

福島県自動車リサイクル協同組合の創設 20 周年記念式典・祝宴が開催

20 周年の節目をみんなで祝福—福島のつながりと前向きな力を発信

9月4日(金)、福島県郡山市で福島県自動車リサイクル協同組合の創設 20 周年記念式典・祝宴が開催され、福島県の皆様をはじめ、東北各地から会員の皆様がお祝いに駆けつけました。これまでの歩みを振り返るとともに、これから先への期待も感じられる、節目にふさわしい一日となりました。

式典では、田村理事長が主催者として挨拶に立ち、20 年を支えてきた組合員や関係者への感謝を述べるとともに、福島組合が地域に根ざして積み重ねてきた努力と結束の大切さを語りました。その言葉からは、仲間を大切にしながら前に進んできた福島らしさがにじみ、会場全体が引き締まると同時に、あたたかな空気に包まれました。

JAERA 本部から石井代表理事、阿部専務理事、東北から永田副代表、平地統括ブロック長が出席。第一部では石井代表が祝辞を述べ、20 周年への祝意とともに、福島組合が果たしてきた役割への敬意が示されました。第二部の祝宴では阿部専務が挨拶し、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。式典では、これまでの歩みを振り返りながら、福島組合が 20 年にわたって築いてきた信頼とつながりの深さがあらためて感じられました。祝宴に入ると、権現太鼓の迫力ある演奏が会場の空気を一気に盛り上げ、さらにファイヤーボンズチアリーダーの華やかなパフォーマンスが花を添えました。節目を祝うにふさわしい、明るくにぎやかな時間となりました。

福島組合の魅力は、20 年という歴史だけではなく、仲間同士のつながりの強さ、場を明るく盛り上げる力、そして次につなげていく前向きさです。そんな福島の皆さんの底力が、式典のあちこちで感じられる一日となりました。



会場に集まった皆さん

05 ▶ 自動車リサイクル士更新講習会のご案内

資格更新の時期です！

2026 年度の自動車リサイクル士更新講習会の申込受付が、本日 10 月 1 日からスタートしました。今回の対象は、資格の有効期限が **2026 年 10 月・11 月・12 月の方**で、2021 年に更新講習会を受講された方が目安です。**対象者には、9 月末に登録住所あてに案内を郵送しております**ので、お手元の書類をご確認ください。

講習会は、4 つの日程から 1 日を選んで全て WEB で受講でき、会場などへお越しいただく必要はありません。大切な資格を切らさないためにも、更新忘れのないよう、早めのお申し込みをおすすめします。

対象かどうか不明な場合は、[自動車リサイクル士名簿](#)での確認をお願いします。

項 目	内 容
対象者	資格の有効期限が 2026 年 10 月・11 月・12 月の方
申込期間	2026 年 10 月 1 日(木)～11 月 30 日(月) 必着
受講方法	WEB 受講(対面不要)
開催日	第 1 回：2027 年 2 月 5 日(金) 第 2 回：2027 年 2 月 17 日(水) 第 3 回：2027 年 2 月 26 日(金) 第 4 回：2027 年 3 月 5 日(金) 上記 4 つの日程から 1 つご選択



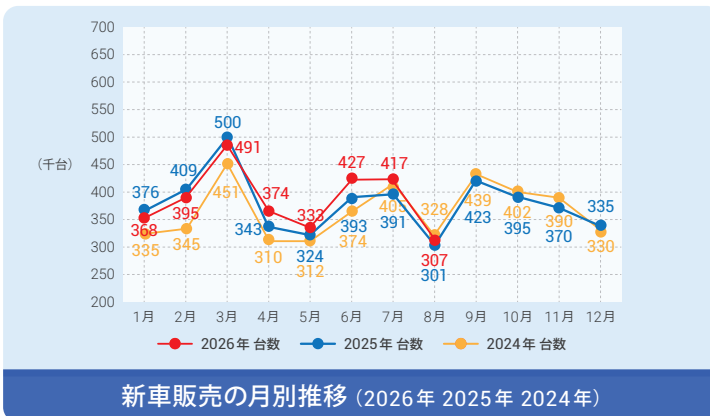
06

8月新車販売・使用済自動車発生台数・中古車輸出に係る返還台数

2026年8月の台数動向

— 新車販売・中古車輸出は前年超え、使用済は依然として前年を下回る

■2026年8月度 新車販売台数 307,375台 (前年同月比102.0%)

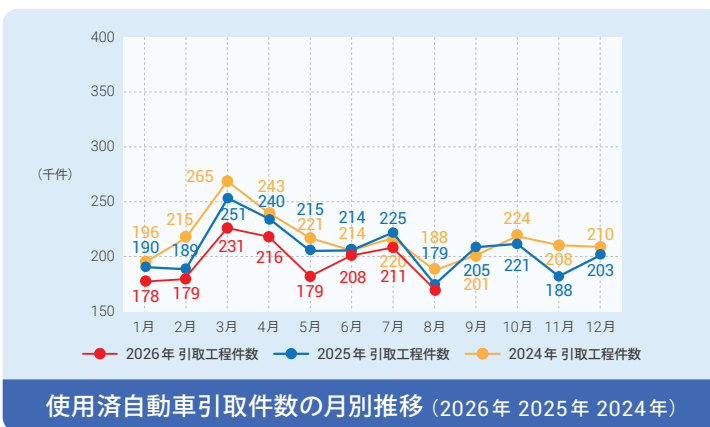


過去の新車販売台数推移		
年累計	台数(台)	前年比(%)
2026年(8月まで)	3,111,738	102.5
2025年	4,565,777	103.3
2024年	4,421,494	92.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況

2026年8月度 引取工程 176,141件 (前年同月比98.2%)



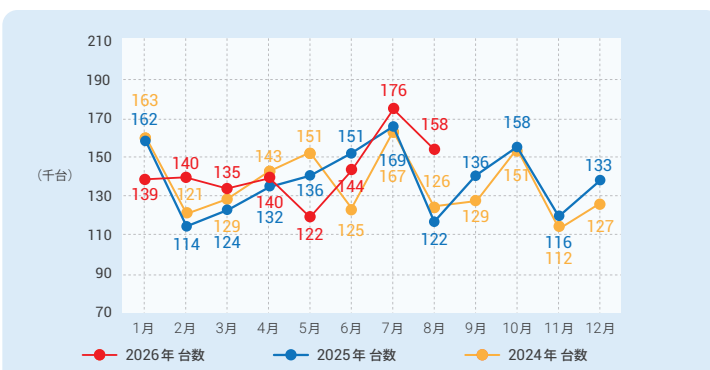
過去の使用済自動車引取台数推移		
年累計	件数(件)	前年比(%)
2026年(8月まで)	1,577,900	92.7
2025年	2,519,062	97.2
2024年	2,607,112	95.5
2023年	2,731,329	98.6
2022年	2,769,122	87.5

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

■中古車輸出に係る返還台数※

2026年8月度 158千台 (前年同月比129.5%)

※中古車の輸出に伴い、預託していたリサイクル料金を返還した台数



過去の中古車輸出に係る返還台数推移		
年累計	台数(千台)	前年比(%)
2026年(8月まで)	1,154	100.5
2025年	1,656	100.7
2024年	1,644	111.0
2023年	1,481	115.7
2022年	1,281	95.5

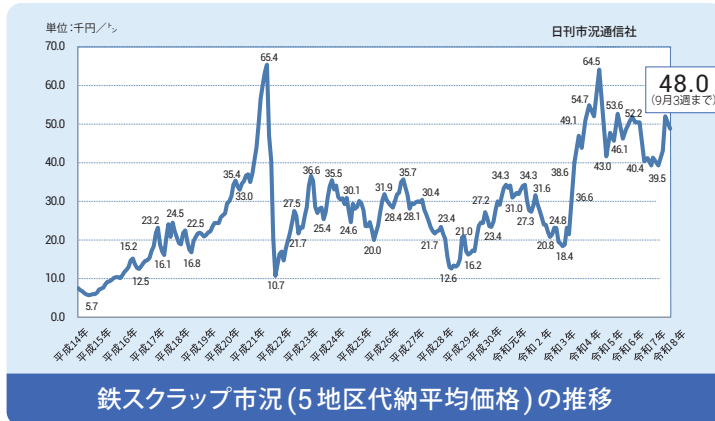
※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

07

鉄スクラップ最新情報

[提供：日刊市況通信社]

9月第3週（17日）の鉄スクラップ動向



9月17日の国内スクラップ炉前実勢価格（中心値）

		H2	気配
関東	北関東	45,500 ～ 47,500	様子見
	南関東	45,500 ～ 47,500	様子見
	浜値	46,000 ～ 47,000	様子見
名古屋		48,500 ～ 49,500	様子見
関西	大阪	49,000 ～ 49,500	様子見
	姫路	49,500 ～ 50,500	様子見

トルコの輸入鉄スクラップ相場、上昇続く 米HMS CFR395ドル

トルコの輸入鉄スクラップ相場は、9月上旬から中旬入りにかけて上昇が続き、現在も堅調感を保ったまま様子見横ばいで推移している。フレートの上昇により特に遠距離輸送の米国玉が高値を付ける展開となり、現在も原油価格が高値で推移しているため今後のフレート高を想定しトルコミルが鉄スクラップ在庫の積み増しに動いていることが、トルコ市場の堅調感につながっている。

9月14日に判明した直近の成約では、11日付で米国玉のHMS1&2（80：20）がCFR395ドル、シュレッダーおよびボーナス（HS相当）がいずれもCFR415ドルを付けた。これより前の米国玉の成約としては、9日付でHMS1&2（80：20）がCFR390ドルを付けており、週末にかけて5ドル上昇した。

なお米国東海岸からのトルコ向けのフレートは1トン当たり50ドル程度とみられ、それまでの45ドルから5ドル上昇している。先週の成約価格の動きは、このフレートの上昇分を反映したものと考えられる。米国シッパーにはさらに上げ余地があると見る筋があり、「フレートの上昇前はHMS1&2（80：20）でCFR395ドルが視野にあったが、現在はCFR400ドルも想定できる」といった声が聞かれる。

関東 連休対策の引き合い強化は限定的 大勢様子見

関東の市況は8月下旬からおよそ4週間にわたって横ばい推移している。市中スクラップの発生・流通は不安定で、関東電炉の9月中旬時点の使用量に対する入荷率は90～100%程度と、100%を下回る事業者が散見され、一部では9月下旬のシルバーウィークを前に祝日限定のスポット対応も見られる。関東地区のH2炉前実勢価格は45,500～47,500円中心。H2浜値は46,000～47,000円中心で推移している。

東海 需給双方とも様子見姿勢変えず

東海市場の鉄スクラップ市況は8月下旬以来の水準を維持したまま横ばいの推移を続けている。需給双方とも様子見の姿勢を変えていないためだ。東海主要電炉は、市中間屋筋が休む20～23日の連休中の操業対策のための必要量を確保する必要がある。しかし、円高や海上運賃高などもあって輸出商談価格が下落する動きを見せていることなどから、需給双方とも様子見の姿勢を崩していない。H2炉前実勢価格は48,500～49,500円中心。

大阪 今後の荷動き注視し様子見姿勢を維持

大阪地区の市況は模様眺めが続いている。電炉入荷のバラつきは解消していないが、一部の9月内にかけての荷止め対応もあり、各社とも荷動きを引き続き注視する姿勢だ。なお一部筋では、9月17日からヘビー類のみ小幅な値戻しを行い、下値が切り上がる動きを見せた。これに追従する動きはないが、大型連休を目前に控え市中発生量が振るわないこともあり、荷動きは勢いを欠いたままだ。H2炉前実勢価格は49,000～49,500円中心。

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、9月17日午前時点のもの）

08

自動車における再生材市場構築事業
3次公募開始のお知らせ

(公財) 廃棄物・3R研究財団では、「自動車における再生材市場構築のための産官学連携推進事業」の3次公募を開始しています。本事業は、自動車向け再生プラスチックの供給拡大・安定化と再生材市場の構築を目的としたもので、使用済自動車由来プラスチックの回収量拡大・輸送効率向上に向けた破碎設備導入支援が対象です。

公募期間

令和 8 年 9 月 7 日 (月) ~ 10 月 30 日 (金) 17 時必着

※応募は受付順に審査・採択され、予算上限に達した時点で公募終了となります。詳細は[3R財団HP](#)をご参照ください。

自動車における再生材市場構築のための産官学連携推進事業費 (経済産業省連携事業)



【令和 7 年度補正予算 (案) 500 百万円】

循環経済への移行に向け、産官学で一致団結し、国内における再生材市場構築を進めます。

1. 事業目的

2023年7月に提案された欧州のELV (廃自動車) 規制案、バッテリー規制などの国際的変化に対応しながら、最も高い再生材の供給を拡大・安定していくことは、循環経済への移行を加速させる重要な課題として掲げられている。本事業では、自動車における再生プラスチックの供給拡大・安定と再生材市場構築に向け、産官学で連携し、サプライチェーンを通じた課題に対応する。

2. 事業内容

- 自動車における再生材市場構築のための産官学連携による調査等
 - 自動車における再生材 (プラ・金属・LIB等含む) 市場構築のための調査
 - 再生プラスチック供給ポテンシャルの評価

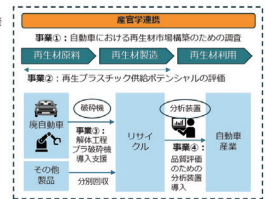
3. 事業イメージ

- 産官学からのプラスチック回収促進事業
 - プラスチック回収量拡大・輸送効率向上のための破碎設備導入支援

4. 事業スキーム

- 事業形態 請負事業、間接補助事業
- 優先先・補助対象 民間事業者・団体
- 実施期間 令和 7 年度

お問い合わせ先: 協賛者 協賛再生・資源循環局 資源循環課 資源循環制度推進室 電話: 03-6205-4946



【出典: 環境省 HP 自動車における再生材市場構築のための産官学連携推進事業費】

編集後記



子どもたちの夏休みが終わったと思っていたら、もう10月。時間の経つのは早いものです。こんな時代だからでしょうか、今の若い人たちは「コスパ」だの「タイパ」だのという言葉をもすぐに持ち出します。お盆休みが終わる頃、孫たちが大騒ぎしながら夏休みの風物詩ともいえる宿題をやり始めました。「自由研究」だそうで、黙って見ていたところ、テーマの着眼点こそ本人のものではあるものの、引用する資料はもちろん、文章の書きだしから構成に至るまで、AIがほぼまとめたレポートになっていました。

残念ながら、生成 AI に馴染んでいない世代の私には、「納得のいかない宿題の出来」としか言いようがありません。学校の先生もどこまでが本人が書き、どこからが AI なのか見分けがつかなくて、どう採点したら良いのか悩ましいと思います。

その昔、学生時代には、卒業論文を提出しなければ卒業できない時がありました。何冊もの本を借りたり、買い漁ったりしながら、参考となる資料などを手に入れるために時間をかけて探したものです。今では、そんなやり方も「タイパが悪い」の一言で片づけられてしまいくさいます。

広報部会長 田村 幸男

10 月の活動予定 & 取組み

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

5日(月) | 第1回 車載用蓄電池に関する検討会 (対面・WEB)

13日(火) | 第2回ブロック長会議 (対面・WEB)

14日(水) | 第1回 自動車リサイクル講習制度検討 WG (対面・WEB)

22日(木) | J-FAR 異常電池処理定例会 (WEB)

27日(火) | 第2回 車載用蓄電池に関する検討会 (対面・WEB)

30日(金) | 第1回 自動車向け再生プラスチック市場構築のための産官学コンソーシアム (対面・WEB)



廃車由来再生プラスチックリサイクルループ

「Car to Car 実現へ」パートナー企業募集

今こそ地球に恩返し

お取引についてのご案内

対象素材

PP(ポリプロピレン)

※自動車部品(バンパーや各種内装等)、自動車以外のPP製品・スクラップも買取可能です!

ロット・引取方法



都度ご相談。
柔軟に対応します。



お問合せ先

ISONO

いその株式会社

**いその株式会社
資源循環開発室**

担当: 朝妻(あさつま)

☎ **0587-32-8181**

各拠点のご案内

本 社

〒461-8630 愛知県名古屋市東区相生町55番地

☎ 052-931-1211

稲沢事業所

〒492-8271 愛知県稲沢市石橋6丁目52番地

☎ 0587-32-8181 (営業本部)
☎ 0587-32-1772 (製造本部)

東京営業所

〒101-0043 東京都千代田区神田富山町6-2 松崎ビル4F

☎ 03-3258-8171

長野営業所

〒399-0744 長野県塩尻市大門1032-17 フレグランスステーション B102号室

☎ 0263-54-5331

九州事業所

〒808-0021 福岡県北九州市若松区響町一丁目102番地6

☎ 093-771-0253